

公の施設の見直しについて (1/28 行革委で議論した施設)

平成 23 年 3 月 24 日

行政改革推進室

1. 生涯大学校

【行革委員会での主な意見】

ア) 基本的考え方

⇒高齡化社会を見据えた場合、生涯大学校の役割は必要。⇒社会福祉審議会の答申の中にヒントがある。

※社会福祉審議会答申（主なポイント：「基本的考え方」「県の役割」）

基本的考え方

高齡者の社会活動参加への支援、地域活動の担い手人材の養成に重点を置くべき

→「学んだことを地域活動に繋げる場」への転換

県の役割

地域づくりの担い手養成は、地域に密接な市町村の役割が期待される。一方、事業の運営効率等により、単一市町村のみでの取組は困難

イ) 事業主体・他主体との連携関係

⇒どの主体がどの役割を担うのかを含め、検討すべき⇒市町村との連携では配置が重要。小規模でも各郡域にあった方が良い。⇒福祉科の学生が少ないのは、市や地区社協との連携がないからでは

⇒講座を聴き、それを地域活動に結び付けることは容易ではない

ウ) その他

⇒「短期」と「長期」に分けて見直しを検討すべき

短期見直し：授業料見直しや応募者が少ない通信制の廃止 等

長期見直し：市町村立にするのかも含めた市町村との提携 等⇒カルチャーセンターのような課程・学科を設ける余裕はない⇒高齡者の雇用環境、地域活動、学習活動の傾向の中で位置づけが必要

【総務部の基本的考え方】

① 「地域活動を担う人材養成」は必要。主体としては、地域の実情、コミュニティを良く知る市町村が役割を担うことが最適。地域に身近な施策は基礎自治体の役割に、とする分権の方向性とも合致。

また、主体的な地域活動を行っている NPO にも期待ができる。

② 上記を踏まえ、「公の施設」としての生涯大学校は、県内各域の地域事情を踏まえた上で、段階的に縮小する方向で見直しを進める。

2. 図書館

【行革委員会での主な意見】

- ⇒図書館のスペースが足りなくなる時代がくる。
- ⇒電子化に対応する図書館像を示すべき
- ⇒IT化するにも予算が必要。県の財政力でも相当難しい時代が来る。
- ⇒県全体として必要な県立図書館の機能水準や、電子化を前提とした国と県の役割分担が今後の課題（→生涯学習審議会で今後議論）
- ⇒生涯学習審議会の資料を提供いただきたい。効果的な有り方を検討したい。

【総務部の基本的考え方】

- ① IT化時代を踏まえた図書館像の明確化が必要（書庫容量対策含む）
- ② ①を踏まえた上での、国・県・市町村図書館の役割分担の明確化（今後の県立図書館が保持すべき機能の明確化）が必要
- ③ ①②及び財政状況を踏まえた上での、現行の3館体制について、見直しの方向性で検討を進める